

楽しく安全に長く暮らせるように……

居室をカスタマイズ

障害者グループホーム開設

社会福祉法人 睦月会 (東京)



グループホームでの新生活を「楽しみ」と話す菜理絵さん(右)と橋本施設長

3月に東京都武蔵野市に障害者一人ひとりの状態に合わせて居室をカスタマイズしているグループホーム「Life Design (綿栢理事長)は、利用者の親亡き後の

「終の棲家」として高齢になつても、重度化しても暮らせるよう工夫を凝らした。つむぎはグループホームの「日中サービス

ため身体障害者手帳を

カスタマイズはグループホームの設備基準を満たした上で、利用者の希望に応じて自費で実施。例えば、音が苦手な人は防音壁、多動のある人はクッション床、発作のある人は室内カメラを設置した。壁紙を好みの色柄にしたり、部屋を動きやすいようレイアウトしたり、「本人が楽しく安全に過ごせるようにしている」と橋本真一施設長(34)。

利用者の年齢は20〜50代で、障害支援区分は4以上。将来の高齢化、重度化を想定して機械浴を設置(入所時点で約半数が利用予定)。トイレは車いすでも利用できるようスペースを広くし、洗濯室には汚物流し用シンクも設けた。さらに1階に訪問看護ステーション(年内開設予定)があり、医療ケアへの対応も可能だ。コロナ禍で入所が遅れているが、7日には箕川菜理絵さん(29)が両親に付き添われて入所した。グループホームに慣れるまで1年

新型コロナウィルスの発生福祉施設(本紙)が、11日までに598人になった。4月の感染は778カ所、1月の1395カ所、昨年12月の861カ所に次いで多く発生。感染力が強く、重症化率が高い変異株による感染が増えており、して気が抜けない状況している。

4月の発生施設を種ると、▽高齢者施設3

以上かかるとされる中、母の泉さん(56)は「心配もあるが、将来を考えて若いうちに慣れた方が良く考えた」と話す。

法人では、家族会を開いて親亡き後について勉強を重ね、親子の「共依存からの脱却」などについて理解を深めてきた。橋本施設長は「利用者は誰かがやってくれるという状態から『自律』し、親は子どもが地域で暮らせるよう『任せる』覚悟も必要だ」としている。

(榎戸新)

2022/4/27
GH
R3.5/17
320/100